

## 第4回 テーマ 「安全な学校であるために」

- ・期 日 平成23年11月11日(金)3、4時限
- ・受講者 学生 21人 (4年次20人、大学院生1人)
- ・学部教員 井門正美教授(教職実践演習実施委員会委員長)  
内海 淳准教授、佐川 馨准教授
- ・担当教員 神居 隆特任教授、石橋研一客員教授、斎藤 孝客員教授

### 外部講師の紹介

外部講師である県高校教育課・真壁聡子副主幹の紹介等(神居客員教授)

### 講義「安全な学校であるために」

真壁副主幹が、資料をもとに次の内容で講義を行った。

安全な学校とは  
学校における危機管理のポイント  
若い教員のための危機管理のポイント  
開かれた学校について



危機管理のポイントでは、自己や危険を予知すること、未然に防止するためには些細なサインを見逃さないこと、事故後の適切な初期対応の在り方などを挙げた。

また、若い教師への助言として、学級担任として子どもの生命を守ること、一人一人をよく観察してサインを見逃さないこと、一人よがりにならないで周りの教師や保護者と連携すること、一般常識のある社会人として自律する意識をもつことなどを提示した。

### 協議、発表

これまで学校で体験した事例とその対応について、小グループに分かれて協議を行った。



協議後、グループごとに次のような発表があった。

- ・地域住民と連携して不審者への対応に当たったこと。
- ・登下校の通学路の安全のため、ハザードマップを作成した。
- ・授業中の事故や怪我があったときの教師の指示や対応が適切だった。
- ・廊下を走るなど休み時間の事故があり、正しい遊び方や危険な場所の周知を徹底した。

まとめとして、神居特任教授から、校舎や教室等に死角がないかよく把握すること、学校事故の責任は教師が問われることがあること、女子生徒に対するセクハラのことなどの助言があった。

### リフレクションノートから

・「安全な学校」には多様な意味があることが分かった。他と協同して安全を考え、一人よがりの判断をせずに全体として対応していきたい。

・学校の周囲には思っている以上の危険が多いことを改めて意識することができたので、常に対応を心掛けながら生活していきたい。

・安全な学校にするために、子どもをよく観察して予測するということが様々な場面で重要であることが分かった。

・侵入者が多いことに驚いた。自分の体験も生かせる授業であり分かりやすかった。

### 資料

#### 協議題 「学校で体験した実例とその対応について」

これまでの学校生活の中で遭遇した学校事故又は事故の恐れがあった実例を紹介しながら、その対応策などについて協議する。

- 例
- ・授業中の事故
  - ・休み時間や放課後の事故
  - ・校外学習等における事故
  - ・部活動等における事故
  - ・登下校中の事故
  - ・その他